

巴川流域麻機遊水地自然再生協議会の概要

1. 自然再生の対象となる区域



麻機遊水地では、自然再生推進法に基づき自然再生協議会を設立し、麻機遊水地の自然環境を保全、再生、創出、維持管理していくための活動に取り組んでいます。

自然再生の対象区域については、第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区の総面積約140haを対象に活動に取り組んでいます。



2. 麻機遊水地の自然環境の概要

●沼から水田そして遊水地へ・・・



かつて麻機低地には、安倍川の表流水や伏流水が流れ込み、浅畑沼をはじめ大沼、小沼など大小の沼が存在していましたが、水田への土地利用が図られ徐々にその姿を消していきました。そして、昭和49年の七夕豪雨以後、麻機遊水地の整備が始まり、現在に至っています。

●多様性のある湿地環境となった麻機遊水地



麻機遊水地は、整備以前に水田であったことから、整備により土中に埋もれていた種子が掘り起こされ、ミスアオイなどの植物が蘇りました。また、池沼部が形成され開放水面が増えたことにより、野鳥をはじめとする多くの動植物が生息・生育する貴重な湿地となりました。

●麻機遊水地の課題点

麻機遊水地では、治水整備後の数年間は多様な湿地環境を維持していましたが、植生遷移による自然環境の単調化や水質の悪化、外来種移入の問題、湿地の乾燥化などの問題を抱え、良好な自然環境の消失が懸念されています。



3. 自然再生目標



【麻機の目指す姿】

「生命にぎわう わ（環・和・輪）の湿地麻機」を目指して

【自然再生目標】

「良好な水環境の再生」

「在来種の保全と生態系のバランスを保つ」（環）

「人と自然との持続的な関わりづくり」（和）

「周辺とのネットワークづくり」（輪）

4. 巴川流域麻機遊水地自然再生協議会の概要

●協議会構成委員

本協議は、公募により会員の募集を行っています。協議会へは、遊水地の自然環境保全活動に興味があればどなたでも参加する事ができます。

【学識経験者(6名)】

田中 博通 (東海大学教授)
湯浅 保雄 (静岡植物研究会会長)
板井 隆彦 (静岡淡水魚研究会会長理事)
高橋 真弓 (日本鱗翅学会会員)
伴野 正志 (日本野鳥の会静岡支部副支部長)
加藤 英明 (静岡大学講師)

【団体会員(70団体)】

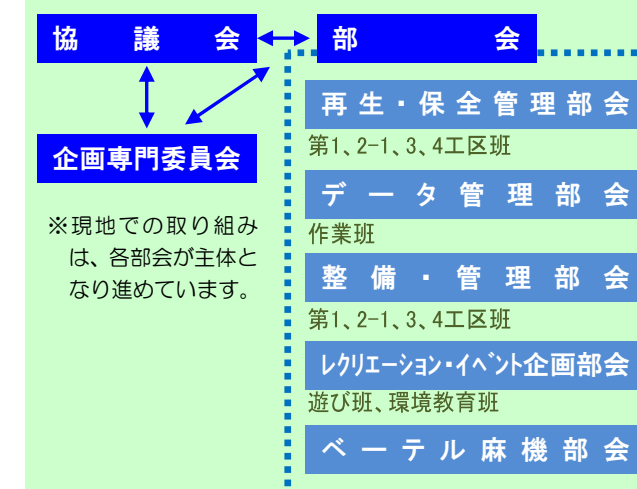
近隣小中学校、病院、地元自治会、NPO、企業、各種団体等

【個人会員(30名)】

【行政機関(7機関)】

国：国土交通省静岡河川事務所
静岡県：静岡県静岡土木事務所、交通基盤部河川砂防局河川企画課、交通基盤部河川砂防局河川海岸整備課
静岡市：環境局環境創造部、都市局都市計画部、建設局土木部

●協議会組織体制図



●これまでの協議会での主な取り組み

【稀少植物の保全】

以前、ミスアオイが生育していた箇所が放置されヨシ群落に遷移したことから、人為的に攪乱しミスアオイの再生活動に取り組んでいます。その他にも、現在遊水地で見られるオニバス等の希少種を保全するために、オニバスと競合する植物や外来植物の駆除作業にも取り組んでいます。



【池沼部の環境改善】

池沼部における魚類等の生息環境の改善のために、池沼部に深みを設置するとともに、水の管理を行うための排水路の設置を行ってきました。その他にも、池沼部に繁茂する外来植物の駆除や、ミシシippアカミミガメやホテイアオイ等の外来種駆除を行っています。



【観察会・環境学習会の実施】

市民に麻機遊水地の自然環境や本協議会での取り組みを知ってもらうために、様々な観察会を開催しています。また、子供たちにも麻機遊水地の自然環境にふれあってもらうために、子供向けの環境学習会も開催しています。



麻機遊水地第3工区

●協議会のこれまでの流れ



●自然再生事業実施計画における事業メニュー

【多様性のある湿地環境の再生】

遊水地内に残されている水田表土を活用した湿地環境を再生し、在来植物の保全・再生を図るとともに、植生遷移により多様性が失われた箇所を人為的に攪乱し攪乱依存種の再生を進めます。また、池沼部においては池底に深みなどの変化を付け、在来魚の生息、産卵、越冬に配慮した環境を再生し、治水整備により撤去される水路についても、より魚類の生息に配慮した水路とし、そこに生息する魚類の保全に努めるとともに、子供達の環境学習の場としても活用していきます。

【人と自然との関わりづくり】

再生した自然環境を保全、維持していくための組織およびルール作りを行うとともに、昭和30年代前半に見られた人と自然との良好な関係の構築を目指します。

巴川流域麻機遊水地自然再生協議会の平成26年の活動状況

今年度は、自然環境の保全に関する取り組み以外にも、市民に遊水地や遊水地の自然環境を知ってもらうためのイベントも多数開催しました。



柴揚げ漁 (1/19) : 第3工区



子供釣りマナー講座 (4/19) : 第3工区



麻機遊水地一斉清掃 (5/17) : 第1, 3, 4工区



竹灯籠祭り (7/6) : 第1工区



遊水地の生きもの探し (7/26) : 第1工区



ハス、オニバス観察会 (9/6) : 第1工区



ミズアオイ観察会 (9/20) : 第3工区



外来種駆除作戦 (10/4) : 第4工区



サクラタデ観察会 (10/18) : 第4工区



カヤネズミ学習会 (10/26) : 第3工区



■遊水地フェスタ(H26.11.8)



協議会では、麻機遊水地の自然環境や自然再生活動の取り組みに関するPR、協議会の参加促進を目的とした「麻機遊水地フェスタ」を平成26年11月8日(土)に開催しました。
フェスタでは、遊水地の自然環境を活かした企画や、静岡てんかん・神経医療センターなどと連携した企画などが行われました。

①高所作業車乗車体験



②山羊の除草実験



③木工作り体験(モリス)



④ヨーヨー釣り(てんかんセンター)



⑤ターゲットバードゴルフ



⑥遊水地の魚類展示(東海大学)



⑦どんぐり遊び



⑧釣り体験



⑨カヌー体験



⑩動物とのふれあい(静岡農業高校)



⑪地場産品等の販売



ベーター麻機部会の全体構想



1. ベーター麻機部会の概要

●ベーター麻機部会が目指すもの

ベーター麻機では、障害者や高齢者が安心して安全に暮らすことができるように、麻機遊水地の特性や自然環境を活用して、地域と障害者や高齢者との連携、農業、医療、福祉を通じて障害者の職業訓練、自立支援の場として活用し「施しより仕事を」実現していくことを目指す。

●ベーターと麻機

ベーターはドイツ・ビーレフェルト市(人口 34 万人)にあり、その施設やシステムはベルリンをはじめドイツ国内を中心に広がっている。ベーターには各種病院や老人ホーム、特別支援学校などがあり、約 1 万 4000 人の医療従事者がいる。医療と福祉が機能的に行われており、障害者も老人もさまざまな仕事(約 2500 職種)に就くことで、生き甲斐をもち充実した暮らしを送っている。

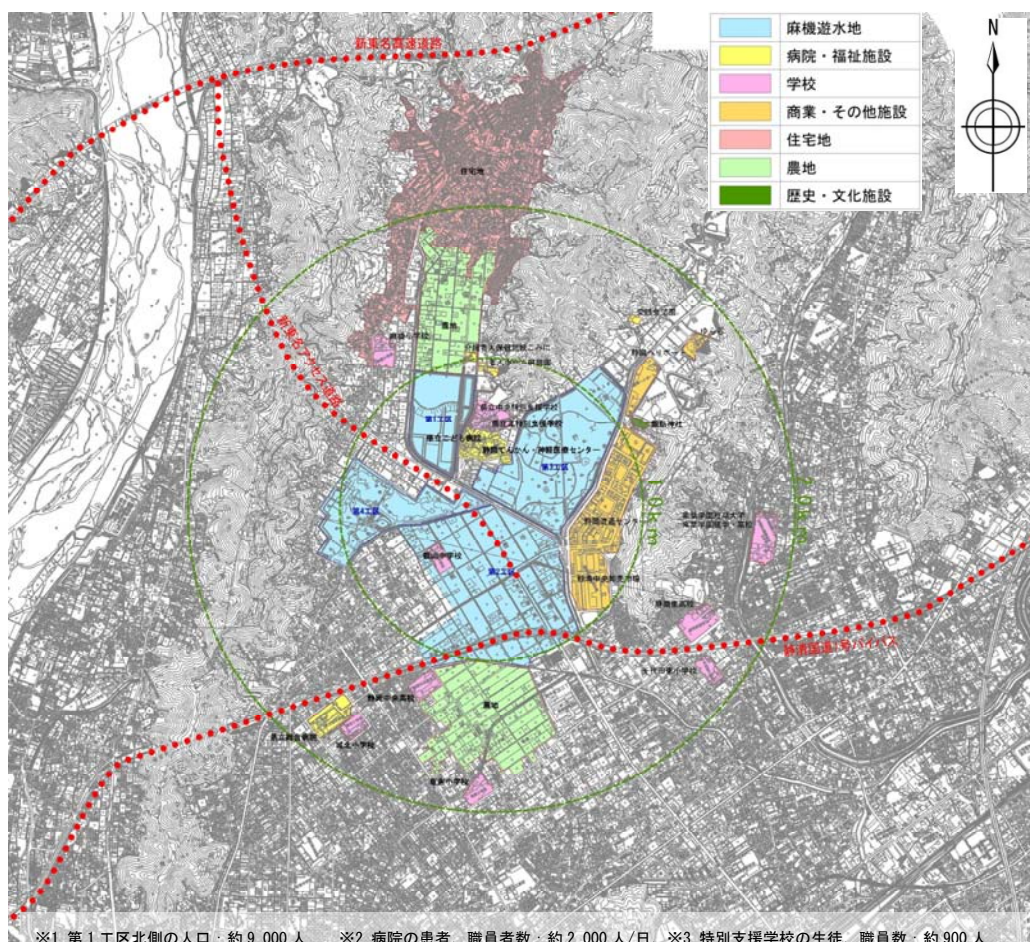
麻機には「静岡県立こども病院」、「独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター」という全国でも屈指の専門病院と静岡県立北特別支援学校、静岡県立中央支援学校という静岡県の障がい者教育の中核を持ち、それ以外にも保育園、幼稚園、小学校、中学校等の一般教育施設と高齢化を迎える住宅地域、そして、静岡市の物品の流通の要「静岡市流通センター」を擁している。さらには、麻機遊水地は自然再生推進法に基づき自然再生事業に取り組んでいる全国でも有数の自然豊かな場となっている。

故に麻機において、『医療・福祉・地域・環境』を機能的に実践することにより、これからの低成長高齢化社会への静岡の提言として発信をすることが可能となる。

●ベーター麻機部会の構成委員

団体委員：独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター、静岡県立こども病院、静岡県立静岡北特別支援学校、静岡県立中央特別支援学校、千代田東自治会連合会、観山中学校、麻機小学校、城北小学校、一般社団法人モリス、人と自然との関わり作りの会、地域の庭を作る会、麻機自然体験コミュニティ「Balance」、麻機学区自治会連合会、麻機湿原を保全する会、JA 静岡市あさはた支店、協同組合静岡流通センター。(有)アーク、しずおか信用金庫、(株)アクティオ、(株)ミサワホーム静岡、(株)アイエイアイ、静岡トヨペット(株)、文化シヤッターサービス、瀧重機土木(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)アースシフト、(有)キーオプライフ、(株)ニュージェック、(株)CREA FARM、一般社団法人バンビワゴン ad+vent、(株)濱村屋、社会福祉法人愛誠会、(株)静岡リビング 個人委員：5 名、

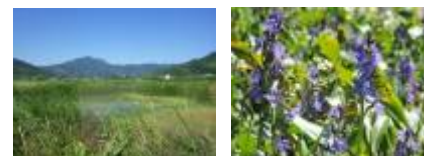
2. 麻機遊水地の自然環境の概要



麻機遊水地

昭和 49 年 7 月に発生した七夕豪雨を契機に遊水地等が整備され、流域の治水効果を高めています。

また、遊水地整備に伴い多くの動植物が生育・生息する湿地環境が形成されました。そのため、人と自然との良好な関わりを取り戻し、麻機固有の動植物の保全と再生を進めていきます。



病院・福祉施設

遊水地周辺には、静岡てんかん・神経医療センターやこども病院等が隣接しており、遊水地を患者さんのリハビリやリラクゼーションの場として活用していきます。



学校

遊水地は子供たちの環境学習の場としても活用され、身近に触れ合うことのできる貴重な自然環境となっています。

また、遊水地に隣接する特別支援学校の障害を持った生徒にとっては、様々な活動を通じて生徒の職業訓練、社会参加を通して生徒の自立を目指します。



住宅地

第 1 工区の北側の住宅地では、高齢者の増加や住宅の空き家の増加などが心配されている。そのため、遊水地を中心に地域を活性化し、この地域ににぎわいを呼び戻すとともに、高齢者の憩い、交流の場として遊水地を活用していきます。

歴史・文化

第 3 工区やその周辺部には、かつては浅畑沼を代表とする沼地が散在しており、現在も伝統的漁法の柴あげ漁の再現が行われています。また、浅畑沼にまつわる「沼のばあさん」の伝説も残されており、諏訪神社には「沼のばあさん」が祀られています。そういったことから、遊水地を地域の歴史・文化の継承の場として活用していきます。



農地・山林

遊水地周辺の平地部は水田や蓮田、山の斜面部は茶畑やミカン畑として活用され、市街地に隣接した貴重な里地里山環境を有しています。しかし、高齢化や後継者不足等により荒廃農地や放置竹林が増加しています。そのため周辺農地の保全や里山の再生、遊水地を活用した農業を展開し、これらの活動を医療や福祉、自然再生の面で活用するとともに、障害者の雇用を進めていきます。



商業・その他施設

遊水地周辺には、流通センター等の商業施設が隣接しており、遊水地の価値を高める事で商業施設の活性化を図っています。

また、遊水地の自然環境保全や利活用においては、民間活力の活用も必須となっています。そのため、相互に連携することにより、地域の環境保全、地域の活性化を進めていきます。



バーテル麻機部会の活動拠点の概要

1. バーテル麻機部会の概要

バーテル麻機部会では、麻機遊水地第3工区の約1haのエリアで、隣接する病院や特別支援学校、地域等と連携し福祉農園（ジャガイモ、カボチャ等の栽培）やレンコン畑、水田等の整備を進めながら、そこに生息する動植物の保全活動に取り組んでいます。活動エリアは長い間放置されオギ等が繁茂していたため、昨年11月にヤンマー(株)の社会貢献活動の一環として、活動拠点となるエリアの除草、耕耘作業などの基盤作りを進め、一般社団法人モリスやてんかんセンターの患者さん、古川組(株)、(株)ユー・ジックなどの協力を得ながら、福祉農園の石拾いやうね作りなどの作業に取り組んでいます。

また、堤防天端は市内のライオンズクラブや静岡トヨペット(株)などの団体、企業から樹木やベンチなどの寄贈を受け、また地域の庭を作る会では花壇作りなどに取り組み利用者が心地よく憩える空間づくりを進めています。



整備前の活動エリア（H25.11）



現在の整備状況（H27.3）



■活動エリアの整備計画図



■これまでの取り組み状況

- H26.11.4-11.6：耕耘作業
ヤンマー(株)
 - H27.1.21-1.23：耕耘作業
ヤンマー(株)
 - H27.1.25：樹木の寄贈
静岡LC、静岡葵LC、静岡橋LC、静岡青葉LC、静岡芙蓉LC
※植え付け作業：静岡県造園緑化協会
 - H27.2.21：ベンチの寄贈
静岡駿府LC、静岡けやきLC、静岡パティLC、静岡弥生LC、静岡巽LC
 - H27.3.11-13：耕耘作業
ヤンマー(株)
 - H27.3.15：生垣の設置
静岡トヨペット(株)
※植え付け作業：静岡県造園緑化協会
 - H27.3.15：福祉農園の開園
モリス、静岡てんかん・神経医療センター、静岡トヨペット等
 - H27.3.25-26：耕耘作業
ヤンマー(株)
 - H27.4.27-30：芝生の張り付け
静岡てんかん・神経医療センター、静岡北特別支援学校、モリス、静岡県造園緑化協会
 - H27.3.25-26：耕耘作業
ヤンマー(株)
- <その他協賛企業・団体>
古川組(株)、富士ツバメ(株)、静岡トヨペット(株)、小倉屋(株)、文化シャッタービル(株)、静岡ガス(株)、瀧重機土木(株)、静岡てんかん・神経医療センター、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、麻機湿原を保全する会



静岡県でも、堤防の拡幅・天端舗装、斜路の設置、支援学校用の掲示版の設置などを進めています。

■麻機遊水地自然再生協議会（ベーター麻機部会）関連記事

静岡北支援関連記事 1 H26. 1. 1 (静岡新聞朝刊)

静岡北特別支援学校と県協働 麻機遊水地保全へ

県立静岡北特別支援学校が作業学習の一環として保全活動を検討している麻機遊水地。静岡市東区

県立静岡北特別支援学校は、全学年の生徒が、土まわりの環境保全活動の一環として、麻機遊水地の保全活動を行っている。麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。作業学習の一環として、麻機遊水地の保全活動の一環として、麻機遊水地の保全活動を行っている。麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。

麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。作業学習の一環として、麻機遊水地の保全活動の一環として、麻機遊水地の保全活動を行っている。麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。

静岡北支援関連記事 2 H26. 7. 1 (静岡新聞朝刊)

静岡北特別支援学校と葵区の団体 巴川美化活動に協力

静岡市東区の県立静岡北特別支援学校と葵区の団体「Balance」が30日、県や市と連携して巴川の美化活動を行った。

静岡市東区の県立静岡北特別支援学校と葵区の団体「Balance」が30日、県や市と連携して巴川の美化活動を行った。静岡市東区の県立静岡北特別支援学校と葵区の団体「Balance」が30日、県や市と連携して巴川の美化活動を行った。



静岡市東区の県立静岡北特別支援学校と葵区の団体「Balance」が30日、県や市と連携して巴川の美化活動を行った。静岡市東区の県立静岡北特別支援学校と葵区の団体「Balance」が30日、県や市と連携して巴川の美化活動を行った。

モリス関連記事 1 H26. 9. 1 (静岡新聞朝刊)

笑顔つながる 麻機遊水地に 官民で農園やカフェ検討

麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。作業学習の一環として、麻機遊水地の保全活動の一環として、麻機遊水地の保全活動を行っている。麻機遊水地は、遊水地が減少し、行々民間団体が麻機遊水地の整備、保や、遊歩道の除草と間伐活動を行っている。

モリス関連記事 2 H26. 11. 27 (静岡新聞夕刊)

モリスとリバー フレンドシップ

モリスとリバーフレンドシップの発足式が行われ、関係者らが参加した。モリスとリバーフレンドシップの発足式が行われ、関係者らが参加した。

モリス関連記事 3 H27. 4. 1 (静岡新聞朝刊)

障害者雇用 コンビニ開店 葵区「能動的活動で就労を」

葵区に障害者雇用を促進するコンビニエンスストアが開店した。葵区に障害者雇用を促進するコンビニエンスストアが開店した。

寄贈関連記事 1 H27. 1. 26 (静岡新聞朝刊)

麻機遊水地植樹へ 45万円余を寄付 静岡市内5LCC

静岡市内の5LCCが、麻機遊水地の植樹に45万円余を寄付した。静岡市内の5LCCが、麻機遊水地の植樹に45万円余を寄付した。

寄贈関連記事 2 H27. 2. 22 (静岡新聞朝刊)

麻機遊水地に 生け垣設置 静岡トヨペット

静岡市東区の麻機遊水地に生け垣が設置された。静岡市東区の麻機遊水地に生け垣が設置された。

寄贈関連記事 4 H27. 4. 21 (静岡新聞朝刊)

麻機遊水地に 屋根付きベンチ 静岡RCが寄贈

静岡市東区の麻機遊水地に屋根付きベンチが寄贈された。静岡市東区の麻機遊水地に屋根付きベンチが寄贈された。



遊水地の自然を活用し、福祉、医療、地域、教育、企業、行政の連携で障がい者の自立支援の場に

人と自然の調和を目指し 動き出した「ベーター麻機」



静岡市の麻機遊水地第3工区で、ドイツの福祉都市ベーターをモデルとして「障がい者が自立し、夢を持てる場所」を作ろうという活動が始まっています。麻機の自然再生と地域の活性化を同時に図ろうという動きに、福祉、医療、地域、教育関係、企業、行政が賛同。今までにない連携体制で、誰もが生きがいや誇りを持って暮らせる共存社会の実現を目指しています。

「ベーター」とは？

ドイツのビューレフェルト市にある町。各種病院や老人ホーム、特別支援学校などがあり、約1万4000人の医療従事者がいる。医療と福祉が機能的に行われ、「施しよりも仕事を」という方針で町づくりを目指し、障がいを持つ人も老人もさまざまな仕事に就くことができる。

麻機遊水地の新しい可能性

麻機遊水地の新しい可能性を提案しようと、昨年の秋から活動が始まった「ベーター麻機部会」の副会長として活躍する「一般社団法人モリス」代表理事の清水光弘さん。これまでの経緯を伺いました。
「モリスは、障がい者の就労支援を行っている団体です。この地域には、病院や養護学校、流通センターなど、さまざまな施設があります。ヒアリングのなかで、障がい者人たちの就労が難しい状態です。しかし、お互いに協力することで、すべての問題が解決するのでは」と、新しい共存社会の実現を目指します。



昨年の夏は、ヤギによる除草も実施。てんかん病院で、子供たちに大人気のヤギ

いろいろな形で自然と人が関わっていきける場所に

ベーター麻機部会副会長 久保田英幹さん

昨年9月に麻機遊水地自然再生協議会から派生して発足した「ベーター麻機部会」。部会長で静岡てんかん・神経医療センターの統括診療部長・久保田英幹さんに、部会の活動について伺いました。
「遊水地の整備と同時に、医療、福祉を軸にした町おこしをしたいという思いがあります。しかし、会としては動き始めたばかり。まずは、多くの人に麻機遊水地を知ってもらいたいですね。皆さんに手を貸してもらって、いろいろな形で自然と人が関わっていきける場所にしたいと考えています」
※部会では、一緒に活動してみたいという個人、団体、企業を募集しています（下記参照）



プロフィール / 1982年東京大学医学部卒業。東京女子医科大学病院、東京都八王子小児病院、東京都立神経病院で小児科、小児神経科、神経内科を研修。1988年より静岡てんかん・神経医療センターに勤務

【ベーター麻機部会取り組み内容】

- ・麻機遊水地の自然再生や地域活性化のための仕組み作り
- ・活動フィールドやコミュニティーの場、治療やリハビリ、就労の場の創出
- ・環境教育の場、職業訓練の場の創出
- ・農業や文化、風習の継承、将来の地域の農業を担う人材育成の場を創出
- ・上記活動や自然とのふれあいに伴い、社会的孤立を防止

入会の問い合わせ：静岡県静岡土木事務所
☎054(286)9363

■麻機遊水地自然再生協議会ホームページ：<http://asabata.org/>



静岡葵ライオンズクラブほかによる記念植樹

「さらに、人の手が入ることで遊水地の希少植生も増えていきます」と、新しい共存社会の実現を目指します。
「遊水地が再生すれば、観光地にもなり、人が来ればショッピングや宿泊の需要も増えます。これから発展して、一つのモデルコミュニティーを作りたいですね」と、展望を語りました。



アシが生い茂っていた第3工区は、ヤンマーの協力で農地に

「静岡流通センター春の大感謝祭」 「第2回麻機遊水地フェスタ」

今年、「地元と一体」をテーマに開催される「静岡流通センター春の大感謝祭」。例年よりボリュームアップした内容で、子どもから大人まで1日楽しめます。「第2回麻機遊水地フェスタ」も同時開催！

- ◆日時：3月15日(日)、午前9時～午後4時 ※雨天決行
- ◆会場：静岡流通センター Aブロック・麻機遊水地
- ◆流通センターイベント(メインステージ司会：久保ひとみ) アンドーひであきライブ、妖怪ウォッチ「ジパニャンバラエティショウ」、静岡チアリーディングBUDDY'S、静岡県立駿河総合高等学校和太鼓部演奏、即売会、こども縁日、流通モーターショウ、ちびっこ広場ほか(詳しくはホームページで)
- ※静岡市と静岡県静岡土木事務所が連携して「防災」「治水」に関するパネル展を開催。来場者には、おみやげが用意されています
- ◆麻機遊水地フェスタ 遊水地自然学習スタンプラリー、カヌー体験、沼の生き物お宝探し

【問い合わせ】
協同組合 静岡流通センター事務局
☎054(263)2000
※午前8時30分～午後5時30分
ホームページ：<http://www.shizuokaryutsu.or.jp/>

静岡トヨペットの取り組み

地元で生き、地域に役立つ企業でありたい ベーター麻機の趣旨に賛同し協力

「お客さまにお車をお届けするだけでなく、地元で生き、地域に役立つ企業でありたい」との理念から、社会貢献に力を注いでいる静岡トヨペット。男女共同参画の推進や地元のさまざまなNPOに対しての支援をはじめ、各店舗に「犯罪被害者支援募金箱」を設置、集まった募金の寄付などの活動を行っています。昨年6月～12月で16万円以上の寄付を集めることができました。また昨年、「ベーター麻機部会」の趣旨に賛同し入会。長いスパンで協力することを決定しました。

3月15日(日)に開催される「麻機遊水地フェスタ」では、午前10時から、同社が、てんかんセンターの贈呈式が行われ、また、農園で種いも植え付け、植樹も実施されます。
今後は、麻機遊水地第3工区の農園の一部を新入社員が教育の一環として、農地整備などを行っていきます。また、作物の世話や収穫の際には、顧客や地域の人たちを招き、自然と触れ合える場にする企画もあるそうです。



静岡トヨペットの社屋フロアで開催された、静岡北特別支援学校生徒の作品展



静岡トヨペットが取り組む「しずおか未来の森サポーター」の活動では、親子で植樹をする姿もみられた

静岡のお客さまと 共に育む。

女性スタッフによる 女性のための特別仕様車
女性に嬉しい パッケージを付けて お得な1台にしました。
絶賛発売中 AQUA

Porte

Ractis

Rising Sun プロジェクト ~Dear Princess~

全ての女性の心に残る店舗づくりを静岡の女性の皆様と一緒にすすめていきたいという思いで発足したプロジェクトです。



女性のお客様に喜んでいただけるイベントやセミナーを計画中です。お楽しみに！

緑の店舗10年計画

いちばん身近な緑のオアシスを地域の皆様とともに育てていきます。

絆プロジェクト

消防活動やお祭りなど、地域の一員として様々なイベントに参加する社員を応援します。

NPO犯罪被害者支援

NPO法人「犯罪被害者支援センター」様の活動サポートの一環として、各店舗に「犯罪被害者支援募金箱」を設置しました。

しあわせの宝石箱 キラキラ
静岡トヨペット

カーラインナップ

プリウス・プリウスα・プリウスPHV・アクア・マークX・プレミオ・SAI・ハリアー・ハリアーHV・アルファード・アルファードHV・エスクァイア・TOYOTA86・アベンシス・ラクティス・ポルテ・ラッシュ・サクシード・ハイエース・トヨエース・コンフォート

本社 / 静岡市葵区長沼611 ホームページアドレス <http://shizuokatoyopet.jp>

お客様相談
テレフォン

☎0120-37-1198 (受付時間) 9:30~12:00 13:00~17:30

『麻機遊水地調査隊』の活動

静岡県立静岡北特別支援学校では、麻機遊水地の自然環境を保全、再生、維持管理を進めるために、麻機遊水地をフィールドとして地域との協働した多様な教育活動を展開しています。

その活動の一つとして、高等部 1 年生では総合的な学習の時間に「麻機遊水地調査隊」を立ち上げ、麻機遊水地について調べたいことのテーマ別に分かれ、調べ学習を行ったり、外部講師によるレクチャーを受けたりして、活動に取り組んでいます。生徒がこの活動に取り組むことにより、「自然を守る」「地域を守る」という気持ちを育てるとともに、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力を身につけ、生活の幅を広げていくことを期待しています。

① 4～7月の活動

麻機遊水地の中でも、学校に一番近い第3工区について、テーマに分かれて調べました。「動物、鳥、魚、昆虫、植物、歴史・文化、地図」の7つのグループに分かれ調査隊の活動がスタートしました。

動物グループ

遊水地に生息する動物をインターネットで検索し、カヤネズミについて調べることにしました。実際にカヤネズミに会うことはできませんでしたが、巣の模型を作ったり生活の仕方を調べたりしました。

■制作したカヤネズミの巣の模型と発表会での様子



鳥グループ

遊水地を散策しながら、野鳥を見つけた際に写真撮影を行うと、遊水地に野鳥がたくさんいることを知りました。また、遊水地の野鳥パンフレットを活用しながら「鳥凶鑑づくり」も進めています。

■現地観察の様子と、生徒が撮影した遊水地で見つけた野鳥の写真



魚グループ

遊水地や遊水地周辺の水辺を散策しながら、魚類調査を行いました。インターネットを活用し、遊水地に生息する魚類を調べたり、魚の模型作りなども行ったりしています。

■現地調査の様子と、魚の模型作りの様子



昆虫グループ

遊水地に生息する昆虫を捕まえ、昆虫図鑑やインターネット活用しながら昆虫調査を進めています。成虫だけでなく、幼虫や水棲昆虫などについても調査をしています。

■現地調査の様子と、撮影した昆虫



植物グループ

遊水地に生育する植物の写真撮影を撮影や、植物を採取し標本作りをしました。また、インターネットや遊水地の植物パンフレットを活用して、その植物の種類も調べています。

■現地調査の様子と、採取した植物標本、撮影した植物



歴史・文化グループ

遊水地ができた理由や仕組み、沼のばあさんの伝説など、テーマを決めて取り組みました。静岡土木事務所の講義や遊水地のパンフレットから遊水地に関する歴史文化をまとめることができました。

■沼のばあさんの紙芝居と発表の様子



地図グループ

遊水地の大きな地図を作ろうと、各グループの友達に「おすすめポイント」を聞いて回りました。そして、実際に遊水地も歩くことで取材をし、模造紙2枚分の大きな地図を作ることができました。

■遊水地の調べ学習と発表の様子



<4~7月の生徒の感想>

- ・遊水地をきれいにすれば、いっぱい生きものがすめる環境になると思いました。
- ・遊水地には知らない鳥や魚や植物がたくさんあることを知りました。これから図鑑を使って遊水地に住んでいる動植物について調べたいです。虫グループは、クイズ形式で発表したり、地図グループはただの地図ではなく、みんなが楽しめる地図を作っていました。
- ・僕は作業が遊水地だったので、いろんな動物や植物をやっていたと思ったのに、発表を聞いて僕が知らない植物や動物がいっぱいいたのでびっくりしました。
- ・今日の発表会では、色々なグループの発表を聞きました。麻機遊水地がどれだけ色々な人に守られているか、今日の発表を聞いてわかりました。僕ができる事は、同じ麻機にすんでいるから、これから僕も遊水地を守らなければいけないと思いました。
- ・今日の発表会で、麻機遊水地には色々な生きものがいて、僕の好きな妖怪伝説もあり、麻機遊水地について興味を持ちました。いつか麻機妖怪伝説、沼のばあさんがまつられている諏訪神社に行ってみたいです。
- ・七夕豪雨の話は怖かったです。もう起きないように協力したいです。

<生徒のエピソード>

麻機遊水地調査隊の活動を通して、生徒たちの日常生活にも変化があらわれました。

■エピソード1

魚グループのU君は、釣りの大好きな男子です。活動の中で遊水地に魚がいることに興味を持ち、休日にも遊水地に出かけることがありました。その日には残念ながらU君の手で魚が釣れませんでした。そのときに多くの釣り人を見かけたため、「釣り人がいるならば、ここに絶対魚がいる」と確信ができたそうです。その後、U君はグループ活動に積極的に取り組むようになりました。

■エピソード2

S君は活動を進めるうちに、遊水地の様々なことに興味を持ちました。ある日の休み時間に学校の3階廊下の図書コーナーから静岡の歴史や遊水地の記事が載っている本を見つけました。その後、クラスに本を持って戻り、周囲の友達と休み時間に遊水地の話をして過ごすことがありました。

■エピソード3

Nさんは、静岡土木事務所の講義を聞き、遊水地の七夕豪雨について知りたいと感じ、家に帰ると母親と七夕豪雨の話をしました。翌日、そんな家族の団らんが連絡帳を通して母親から学級担任へと伝えられました。

② 9～12月の活動

「動物、鳥、魚、昆虫、植物、歴史・文化、地図」の7つのグループはそのままに、メンバーを再編成して活動再開です。今度は第3工区以外も調べに出掛けました。

動物グループ

カヤネズミに会いたい！と、遊水地だけでなく、周辺の散策にも出かけました。周辺農家の方の話を聞いたり、自分たちで調べたりする中で、遊水地にいくつかのカヤネズミの巣を発見できました。

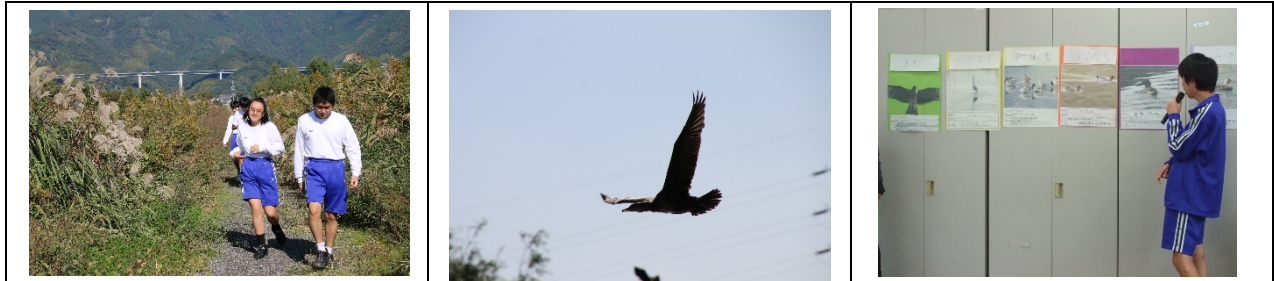
■周辺農家への取材と、見つけたカヤネズミの巣



鳥グループ

遊水地を何度も散策しながら、たくさんの鳥を撮影し、どのような鳥がいるのかをまとめました。発表会では「鳥の名前当てクイズ」を楽しく行い、遊水地に住む鳥の特徴について友達に紹介しました。

■現地観察の様子と、発表会でクイズを行う様子



魚グループ

遊水地に魚がいることを確かめるために、ペットボトルの仕掛けや釣竿を作り、魚を捕まえることにしました。また、地域の専門家による「柴あげ漁」や遊水地の生き物についての講義も受けました。

柴あげ漁の講義 →



■仕掛け作りや釣りの様子



昆虫グループ

遊水地を散策し、たくさんの昆虫の写真を撮ったり、実際に捕まえて観察をしたりしました。発表会では捕まえた昆虫を紹介しながら、その特徴や季節ごとの違いなどについて伝えることができました。

■現地調査の様子と、撮影した昆虫



植物グループ

たくさんの植物を採取し、秋の植物の種類と特徴を調べ、植物図鑑を作りました。また、学校が休校になるほどの被害の台風 18 号の影響についても調べ、遊水地の働きや価値についても確認しました。

■現地調査の様子と、撮影した植物



歴史・文化グループ

「麻機遊水地の食文化を探ろう！」をテーマに農家の方から麻機れんこんの話を知ったり、れんこんを分けていただいたりしたことで、収穫方法、調理の仕方等、麻機れんこんへの理解を深めました。

■麻機れんこんの収穫取材の様子



地図グループ

これまでの活動で遊水地第3工区の地図を作成したので、次は立体のジオラマ地図を作ることにしました。実際に遊水地を取材しながら素材や表現を工夫し、完成させることができました。

■作成したジオラマと発表会の様子



<9~12月の生徒の感想>

- ・僕は家から遊水地が近いし、学校の時は毎日自転車で第1工区のまえをとるので、天気の良い日は、遊水地の植物や、鳥などを見て、遊水地を大切に守っていきたいです。
- ・遊水地は地域の宝物である事を知り、しぜんをこわさないようにきょうりょくしたいと思います。遊水地にすんでいる昆虫や魚などのいきものをいじめたりきずつけたりしないようないきものをいじめない遊水地の姿になってほしいです。
- ・お花がたくさんさいてほしいです。遊水地には、花がいっぱいのほうがいいと思います。なぜかと言うと、たくさんさいたほうがちいきの人たちもよろこぶと思います。
- ・生物が元気にいられたり、自然がきれいな環境だったりと言うことがいいなと思います。遊水地がきれいだと、自然も生き物も生物なども美しくなると思います。
- ・遊水地は、いろいろな花とかしょくぶつがいっぱいあってきれい。きたなかったら、みんなでそうじとか、みんなでまもりたい。
- ・遊水地にくるとりがもうすこしふえてほしいです。遊水地にごみがあるので、ごみをなくしてとりがたくさんきてほしいです。
- ・もっと魚がふえ魚が安全にくらせるようキレイな遊水地になってほしい。誰もが来て楽しめるスポットにして生物が多くせいそくししょくぶつまんさいになってほしい。
- ・これからの遊水地の姿について感じたことは、きれいな遊水地にしたいと思います。ゴミとかをへらすようにします。
- ・遊水地にゴミが出ないようにゴミをなくしたい。なので、ボランティアさんたちをあつめて、遊水地をそうじしてキレイにしたいです。
- ・遊水地は、第1こうくから第5こうくまであるので、遊水地の道に、第1こうくまでのきよりをかんばんを立てればよいと思っています。遊水地にある池などに、魚がいるとしたら、その近くにどんな魚がいるのか、かんばんに書いて、立てればよいと思いました。遊水地は、いろんな魚や鳥、植物(花)、昆虫がいて、自然がいろいろある所で、いいと思いました。
- ・遊水地に対して感謝している事は、大雨が降ったら街に被害がなくなることです。理由は七夕豪雨で川の水が溢れて町が沈んでしまいましたが、麻機遊水地が造られたおかげで、川の氾濫が防がれ、被害がなくなる事と感じたからです。これからは遊水地にゴミを捨てる人が少なくなるようになったらいいなと思う時もあります。遊水地にゴミなどを捨てる、住んでいる生き物が死んでしまっ、せっかくの自然が壊れてしまうからです。なので、これからはゴミを捨てる人を少なくする看板などを立てていくようにしたいなと思います。
- ・さいがいが昔あり、そのさいがいこそ七夕ごう雨のことで、とても大変にみえました。これからも遊水地を大切にしていきたいとねがっています。
- ・遊水地について、自然が多く、生き物もたくさんいます。そんな遊水地にぼくはあこがれをもちました。ぼくの知らない動物がいて、ゆたかで美しいので、これからもずっとこの緑の美しさをたもってほしいと思っています。
- ・1000年後でも遊水地があるといいです。

■ペーテル麻機ガイドイメージ

■遊水地ガイド

ガイドシステムを利用し支援学校の生徒や障がい者の方が、遊水地の自然、歴史、活動などを紹介しながら病院患者さんや生徒の父兄、市民、観光客等を案内します。



自然や歴史など盛りだくさん
Let's go!
麻機遊水地



■自動音声案内板

病院の入院患者さんやその付き添いの方、市民、観光客等が、いつでも遊水地の季節ごとに見られる動植物などの情報を音声案内板から得ながら散策できます。



■一斉連絡システム

一斉連絡システムを支援学校の生徒さんやモリスのスタッフが野外実習や作業する際の連絡に活用し、作業効率や安全性の向上に役立てます。



■Wi-Fiフリースポット

病院や支援学校にネットワーク環境を設置し、遊水地内でも土木事務所で発行したパンフレットや様々な情報をスマートフォンなどからスムーズに入手できます。

